

1. 開会 17:00

2. 市長挨拶

みなさんこんにちは。連日 30 度を超すような天気が続いています。お集まり頂きましたことを心からお礼申し上げたいと思います。今席はコロナ対策ということで三密を避けながら、一人ひとテーブルに着いて頂くような形での開催であります。コロナの感染拡大の中で富良野市においても経済に大きな影響を受けております。コロナの関係につきましては、医療関係、福祉関係、介護等を含めて関係する方々にお集まり頂いておりますが、コロナ関連で運営も大変だと思います。本市と致しましても観光等で人の流れは出ていますが、適切な対応を図れるように体制は取っております。今後とも皆様からのご協力をよろしくお願ひしたいと考えております。

3. 会長挨拶

小山内会長：

今、市長からもお話ありましたが、特に富良野は観光地というので、連休や土日に関しても人の出入りが多くなっております。感染予防に関しては十分気を付けていかなくてはならないと感じております。特に、高齢者に関しては皆さん関係する施設・病院ですので、もし一人でもコロナにかかってしまって、十分対応できなければクラスターが発生することになりますので、十分気を付けて対応して頂きたい。ただ、地域包括支援センターというのは、高齢者を地域で輝かせる場となるようにしていかななくてはなりません。どうしてもコロナが出てくると引っ込み思案・守りに入ってしまいます。守るだけでなく今まで通りの対応ができるようにしていきたいと思っておりますので、みなさんのご意見を頂きたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

4. 議事

(1) 令和元年度富良野市地域包括支援センター事業報告について

- ① 事業報告
- ② 収支決算

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:08-17:32

(質疑・応答)

草野委員：

認知症初期集中支援チームの活動のことで、相談の段階から認定、サービス利用に繋がっていると話があったが、他市町村では実際に事例検討数はあるのか。

民生委員や家族からの認知症に関わるような相談があるのであれば、初期支援集中支援チームの活動が連携、繋がりが持てているのか知りたい。認知症初期集中支援チームがより実績につながるような取り組みの工夫があってもよいのではと感じた。

事務局：

他市町村の取り組みについては、事例検討を定例的に行い、集中チームの実績を残している市町村があると聞いている。しかし、他の包括でも通常の総合相談業務として対応している方が多く、認知症初期集中チームとして実際に動いているのは少ない現状がある。

市外の子供から自分の親の認知症が心配だという相談が実際にあるが、包括で訪問に行つて、介護保険の認定や医療機関の受診に繋げたりしている。そこから何度か訪問をして、家族の方に連絡をしている方もいる。その中で病院に行くのを拒否したり、我々も対応できないという事例があれば、認知症初期集中チームの委員に相談をしていくが、今のところ包括や関係機関と相談した中で対応できている。今後は、困難事例が出てきた時には委員の方と相談しながら必要時には対応していきたいと考えている。

松田(尚)委員：

地域の見守りや認知症のことで話が出ているが、ケア会議に民生委員が出るようになって良かったこととして、顔見知りになっていくことがある。顔見知りになることから、ケアマネの方から、この方に対して見守りをしてほしいという話を頂くようになった。地域の支え合いマップ事業が始まって13年目になった。認知症を隠すものではなく、地域での見守りが無ければ救いあげられない。ケアマネや医療関係者が認知症に対して理解していても、周りの人は徘徊するということを理解できない現状がある。実際に、高齢者夫婦と息子の家庭で去年まで元気だったが妻が認知症になり息子の仕事中に徘徊してしまうという相談があった。何かおかしいと感じながらも、地域の方も声をかけられなかった。相談を頂いたことで、その方の住むところは地域がまたがる所だったが、ケアマネ、医療機関、民生委員等の電話番号を記載したものを近所の歩きそうなところに渡して、もし見かけたら連絡くださいという、みんなで見守る支援をしていった。認知症ほど住民の力が必要だと思っている。見守り活動に繋がりますので、ご協力お願いしたい。

(2) 令和2年度富良野市地域包括支援センター事業計画について

- ① 事業計画
- ② 収支予算

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:42-17:52

(質疑応答)

草野委員：

地域ケア会議の開催の中で、「地域課題を考える場」ということが出ているが、地域ケア個別会議の記載の中では、地域課題の把握することを目的としている。関係機関会議の中では、地域課題には触れていない。地域課題を把握することも重要だが、その中で解決に向け課題を集約して今後の事業にどのように進めていくか、明記した方がよいのではないかと。

コロナが増えてきて、以前は会議が止まってしまったことがあったが、今後コロナが蔓延してきて会議が難しいときにはリモート会議の検討をしているのか。

認知症総合支援事業に関して、認知症の方がスーパーで困る方が多い。私が担当している方の中でも、最近だとコロナ対策の関係で直接的な金銭の授受ができる場が少なくなっている。直接接点できない分、認知症の方が対応に困る場面が出てくる。そのような方と関わる機会の多いスーパー等民間企業の方への講習会開催をすることで見守り体制がより充実するのではないかと。

事務局：

地域ケア個別会議のことにに関して、地域課題の把握と解決に向けて行わなくてはならないと感じている。先月に行った地域ケア推進会議というのが最終的には地域の課題を検討し合う場に当たる。昨年からはまったものなので、回数を重ねながら地域ケア個別会議の中の議論を踏まえ、個別会議の状況等を報告できるような仕組みを作りたいと考えている。

民間向けの認知症の講習会に関しては、コンビニや郵便局などから現在でも認知症が疑われる方や心配な方の情報が包括にきている。その中で認知症に対する周知が必要なことだと感じている。認知症サポーター養成講座を開催している事業所もあるが、それに一步踏み込み、現在認知症のケアパスを更新しているので、認知症サポーター講座の開催やケアパスの配付だけではなく、ケアパスを持ってサロンに行こうと思っている。そのような事業を参考にさせて頂き連携を図りたいと考えている。

福永委員：

地域会議の中で、8期の計画を立案していくこともあるので、地域課題が何なのかが明確にならないと立案が難しいのでは。

現在富良野市に認知症の方は何名いるのか、在宅・施設では何名いるのか。認知症初期集中支援チームの活動費の予算が前年度に比べて100万円くらい上がっている。もっと力を入れていくのだろうと伺える。認知症の方の人数の割合がどの程度いるのか知りたい。

事務局：

認知症の実数の把握は実際にはできていない。ただ認定調査の中での介護認定を受けた方、要支援1～要介護5の方の中からある程度、実数として出せると思っている。ただ、その数が認知症全体の数を表せるかどうかは精査しなくてはならない。

福永委員：

在宅生活している認知症の方がこういった課題があるという事例や課題が見えてこない。

事務局：

富良野市は他の市町村と比べて人口割合に対して施設数が多いと言われている。実際に施設が空きでると施設に入居する方が多いが、実際、在宅の認知症の方がサービスを使えば在宅生活が可能なのか、事例の中で見ていければよいと思っている。事例を出し合うという1年目、今年度2年目につきましては、自立支援に焦点を当てている。地域課題は将来的に個別会議の中で地域課題まで担当の中でも話していた所である。ただ個別会議の事例を出しながら個別の課題を積み上げることで地域の課題が見えていくことにつながると考えている。

草野委員：

個別ケア会議に参加しているが、残る地域課題が出ていないわけではないと思う。事例によっては残る課題になっているところもある。今まで出てきた中で残った課題やモニタリングで検討しきれない部分を皆さんに知ってもらえることで、そこから何か糸口になるのではないかと。個別会議のモニタリングした中で残った地域課題については、少なくとも皆さんにも

提示した方がよい。

また、他市町村では認知症初期集中チームとして実績を残している。地域ケア個別会議の中で自立支援に焦点を当てているが、認知症の方の検討もある。そこで間に合わないのであれば、予算等もあるので認知症に特化した事例検討会の開催など、認知症について検討する会議の設立を考えてもよいのでは。

菅野委員：

地域課題を考えるということに関しては、社会福祉協議会に窓口が増えたため、その役割をやってくれるので、地域課題は社会福祉協議会の方に広がった形ではなかったのは。

事務局：

地域課題の把握や検討の場はいろいろある。地域ケア個別会議の中では、ケアマネが持っている事例をもとに検討して、その中でこのようなサービスがあればよい、地域がこうなればよい、ボランティアがあればよい等、検討していく場である。

おそらく、社会福祉協議会の方に市の方で生活支援コーディネーターという方を委託し、その方が地域に入って活動支援して頂いている。社会福祉協議会の生活支援コーディネーターも地域課題を把握し、地域ケア会議でも地域課題を積み上げている所である。

草野委員からの意見については、地域課題を検討する積み上げ方に関しては、頂いた意見を参考して、個別会議や認知症初期集中チームとして活動していくこと等検討していきたい。

事務局：

地域ケア個別会議のこれまでの経過につきましては、1年間開催してみても関係するケアマネしか参加できないことから今年度から傍聴も可能にした。しかし、コロナの関係で制度として傍聴は可能だが、現在は遠慮して頂いている。毎回地域ケア個別会議が終了したら、参加したメンバーの方には結果をフィードバックするのと、年に2回程度関係機関会議が集まる会議があるので、これまでの地域ケア個別会議で出された事例や検討結果をまとめて報告することを考えている。

松田(尚)委員：

地域ケア会議については、関係する地域の民生委員も話合いに参加をしている。専門職と専門職以外の目線が異なると感じた。専門職の方の意見を参考にして勉強になった。2～3年前に言われたのが個人情報だから教えられないと言われた。助けたいという気持ちがあっても助けられない。知ることで助け合いの気持ち広がる。医療機関ではできない部分を地域の方の見守りが生きてくる。地域の皆さんにお願いをしたら、声かけを嫌がる方は少ない。ぜひ地域ケア会議にも参加していきたいと考えている。

草野委員：

地域ケア会議で出たものは他の事業所等に提示していると伺ったが続けて頂いて、この場でも個別ケア会議で出た課題は何なのか、どのような解決になったのか等提示することも大事だと思う。この場で提示することが幅広い視点で助言いただけることもあると思うので、検

討頂ければと思う。

小山内委員：

ルールに沿って情報共有をして、皆さんで協力していくことが大切である。高齢者の方を楽しく元気よく地域で生活できるようにどうするかという方向は同じですので、よろしくお願いします。

事務局：

地域ケア個別会議は今年2年目に入り、色々な意見が出てくると思う。次年度の運営協議会については、残った課題についても報告させて頂きたいと思っている。認知症の相談に関しても認知症初期集中チームに至らなかった方についても、本日は特徴的なものを口頭のみで報告だったが、文書等でまとめられたら良いと考えている。今年度から認知症に特化した相談記録については報告用にまとめるようにしているので、来年度には提示できれば良いと考えている。

(3) 地域密着型サービスについて

⇒議案に基づき、事務局より説明 18:15-18:25

(質疑応答)

有沢委員：

地域密着型サービス事業所の表の利用者数の部分 90 人のうち市外の利用者が 15 名、待機されている方が 18 人と記載されているが、内訳を知りたい。利用者の方の市外の 15 人の方、これは富良野市の被保険者の方なのか。

事務局：

利用者数のうちの市外の利用者については富良野市外の被保険者になる。富良野市の広域市町村、富良野圏域で協定を結んでいるので、広域のグループホームは施設所在地の市町村の同意が無くても入居が可能となっている。そちらは富良野市外の被保険者の人数になっている。待機者数については、富良野市の被保険者となっている。

有沢委員：

協定があるようだが密着型サービスの趣旨に外れているのではないかという気がする。

小山内委員：

この市外の利用者の 15 人というは広域の方ということでしょうか。

事務局：

上富良野、中富良野、南富良野町からも入居されている方ということになる。

5. その他 18:25-18:30

事務局：

地域ケア推進会議、7期計画のまとめと8期計画に関する会議について
第3回を8月下旬から9月上旬の予定とお知らせしていたが、国から示された8期計画の検討課題について今まで示されなかったことが出てきた。検討した上で次の会議を開催したい。次の開催は9月下旬以降に開催したいと考えている。

6. 閉会 18:30